



■Topics – 自治体取組事例のご紹介 –

ニーズに応え続ける地域公共交通

「つるぎ町コミュニティーバス」【徳島県つるぎ町】

徳島県つるぎ町では、地域住民がいつまでも安心して日常生活を送れるよう、常に地域の生の声に耳を傾けながら、**ニーズに応え続ける地域公共交通**の実現を目指し、コミュニティーバスの運行などに取り組んでいます。

取組経緯

つるぎ町では、民間路線バスが住民の重要な交通手段でしたが、バス停から遠い**山間地域の住民の交通確保**が課題となっていました。そこで、H21年にコミュニティーバスの**利用希望調査**を実施し、希望状況から選定した地域と路線バスの停留所とを繋ぐ**コミュニティーバス**を導入しました(H21.9～H22.5: 実証運行、H22.6～: 本格運行)。

その後、民間路線バスの赤字撤退を受け、H25年4月からは、**町独自で、町全域をカバーするために既存コミュニティーバスの拡大運行**を開始しました。H29年には、登山バス(季節限定)も運行開始し、現在に至るまで運行を続けています。

運行状況

つるぎ町コミュニティーバスは、**幹線**と**フィーダー(17地域)**からなり、**町全域**をワゴン車両で運行しています。**幹線**は、元の路線バスのコースを**毎日運行**(平日6往復、休日3往復)し、**フィーダー**は、主に山間地を地域ごとに**各月3～4日運行**しています。

町では、**利用ニーズを踏まえた運行**が実現できるよう、地域の声を大事にしながら、運行を行っています。従来は乗り継ぎがありましたが、現在は**乗り継ぎなしで目的地まで利用できる**など、利用者の利便性も向上しています。また、移動ニーズが高い時間帯には、**フィーダー車両と幹線車両が併走**することで乗車人数を確保するほか、乗り切れない乗客が発生した場合も、**運転資格を有する町職員がドライバーとして対応**しており、くらしの足として**利用者の不便とならないよう対応**しています。

また、**利用者優遇制度**として、割引回数券の販売、子どもや運転経歴証明書保有者、障がい者等に対する運賃半額制度を実施するなど、**利用促進**も図っています。

今後も**ニーズに応え続ける**ため、ドライバーとの毎日のヒアリング、利用者へのアンケートやヒアリング、乗降調査などを通じ、常にニーズを十分に把握し、運行目的を明確化しながら、運行を続けていきます。

H25.3 までの運行体系



H25.4 以降の運行体系



出典: つるぎ町提供



出典: つるぎ町提供

【取組の詳細】 つるぎ町ご提供資料

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/144-4.pdf>



■総合交通体系グループだより

▶ 第45回 総合的交通基盤整備連絡会議 開催！

「デジタル技術を活用した持続可能な地域交通のあり方」

開催
日時

2024年10月29日(火) 15:00-17:00

開催
方法

オンライン開催【Zoom】

対象・
定員

地方公共団体の職員（1団体2名まで）
【定員】先着450名

※会議の接続方法は、
申込をされた方に
別途お知らせします

地域の持続性、安全・安心を脅かすリスクの高まりやコロナ禍を経た暮らし方・働き方の変化等、時代の重大な岐路に立つ国土において、第三次国土形成計画(全国計画)では目指すべき国土の姿として新時代に地域力をつなぐ国土が示された。この形成に向けてシームレスな拠点連結型国土が掲げられており、この構想の実現に向けては、住民の豊かな暮らしの実現や地域の社会経済活動に不可欠な社会基盤である地域交通の再構築が必要不可欠である。

人材・資金の制約がある中で、デジタル技術を徹底活用し、持続可能な地域交通を実現するにはどうすればよいのか。今回は、デジタル技術を活用し、地域内・地域間等の視点から地域交通の確保に向けた取組事例の共有等により、持続可能な地域交通のあり方について探る。

プログラム ※講演の詳細は次のページをご覧ください。

- 主催者挨拶
- 主催者より問題提起
- 基調講演
 - 講演①「持続する地域と交通のためにデジタル技術とどう向き合うか」
福島大学 教授 / 前橋工科大学 特任教授 吉田 樹 氏
 - 講演②「今あるデータを、地域交通に活かす」
山口大学 准教授 鈴木 春菜 氏
- 事例紹介
 - 講演③「オープンデータを活用した地域公共交通政策～中津川市の取り組み～」
岐阜県中津川市 定住推進課 鎌田 貴久 氏
 - 講演④「ふくい MaaS を機とした地域間連携の土台作りについて」
福井県福井市 地域交通課 屋敷 俊一 氏
 - 講演⑤「地域公共交通施策におけるデータ整備・利活用の取組について」
山形県 総合交通政策課 岸 威頭 氏
- 質疑応答・ディスカッション
- 総評

申込
方法

下記 URL よりお申込みください
<https://forms.office.com/r/c1pBJvYR5n>



申込
期限

2024年10月22日(火)
※定員になり次第終了

講演内容

※講演テーマや講演内容は変更となる場合があります。

講演①

福島大学 教育研究院 教授(経済経営学類担当)
前橋工科大学 学術研究院 特任教授(クロスアポイントメント)

吉田 樹 氏

**「持続する地域と交通のために
デジタル技術とどう向き合うか」**

人口減少下で「持続する」地域と交通をどう設計し、そのために、デジタル技術とどう向き合えばよいのか。地域交通のリ・デザイン(再設計)に向けた取り組みを「実質化」させるうえで求められる考え方について、事例も交えて講演する。



吉田 樹(よしだ いつき)

首都大学東京助教等を経て、2013年4月に福島大学経済経営学類へ着任。2023年4月からクロスアポイントメントで前橋工科大学にも所属。専門は地域交通政策。各地の公共交通政策に携わり、「現場での実践」に基づく理論構築に努める。

講演②

山口大学 大学院創成科学研究科 准教授

鈴木 春菜 氏

「今あるデータを、地域交通に活かす」

地域交通政策において、デジタル技術はどのように活用できるのか、人手不足でデータも少ない地方部で試行錯誤した事例を交えつつ、データやデジタル技術との向き合いかたについて講演する。



鈴木 春菜(すずき はるな)

愛知県豊橋市出身、東京工業大学博士後期課程修了、博士(工学)。2010年に山口大学着任、2012年より現職。専門は土木計画、交通計画。地域交通に加え、都市計画や道路など様々なインフラの観点から地域に携わり、地域づくりを考える。

講演③

岐阜県中津川市 定住推進部 定住推進課

鎌田 貴久 氏

**「オープンデータを活用した地域公共交通政策
～中津川市の取り組み～」**

「標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)」の導入過程や課題の対応、オープンデータの利活用に合わせた取り組み等により、地域公共交通網の維持で定住を促進することについて講演する。



鎌田 貴久(かまだ たかひさ)

1997年4月岐阜県恵那郡福岡町役場に奉職(2005年2月に長野県山口村を含む7町村が中津川市に合併)。2020年4月に定住推進課課長補佐に就任。2022年1月に交通政策係長を兼任。2023年4月に定住推進課長に就任。

講演④

福井県福井市 都市政策部 地域交通課

屋敷 俊一 氏

**「ふくい MaaS を機とした
地域間連携の土台作りについて」**

ふくい MaaS を構築していく上で重要視している「地域間連携・産学官連携」と「継続性」について、事業の進め方や実証実験、アプリ導入の経緯、特に気を付けていること、失敗した点などを踏まえて講演する。



屋敷 俊一(やしき しゅんいち)

福井県福井市出身。大学卒業後、1998年4月福井市役所入庁。2021年4月から地域交通課に配属。MaaS の他、AI デマンド交通や EV バスの導入など様々な利用促進施策を担当。

講演⑤

山形県 みらい企画創造部 総合交通政策課

岸 威頭 氏

**「地域公共交通施策における
データ整備・利活用の取組について」**

山形県では、GTFS-JP をはじめとする公共交通に関するデータ整備や活用を、令和3年に策定した県地域公共交通計画における柱として位置付け、取組を進めている。これまでの取組を紹介するとともに、見えてきた課題を講演する。



岸 威頭(きし たけあき)

1997年4月山形県入庁。工業戦略技術振興課、財政課、環境企画課等を経て、2024年4月より現職。山形県地域公共交通計画の推進、鉄道沿線の活性化、物流対策等の取組を進めている。

【お問合せ先】

国土交通省 総合政策局 総務課(総合交通体系) 担当: 伊藤

電話: 03-5253-8111 (内線 53-113)

▶ ICT を活用した歩行空間における移動支援サービスの取組 歩行空間ネットワークデータ整備仕様の改定

国土交通省では、誰もが自律的に安心して移動できる包摂社会の実現に向け、ICTを活用した歩行空間における移動支援サービスの普及・高度化を推進しています。

このたび、電動車椅子や自動配送ロボット等の普及を見越し、より効率的なデータ整備・更新が可能となるよう、「歩行空間ネットワークデータ整備仕様」を改定しました。これにより、従来の自治体が提供するバリアフリーマップや詳細なバリアフリーナビでの活用のみならず、簡易版のバリアフリーナビや自動配送ロボットにも活用の幅が広がります。

【改定のポイント】

- ①簡易な計測によるデータ整備・更新
- ②モビリティの性能を考慮した仕様変更
- ③モビリティ等の走行軌跡を活用したデータ整備・更新

【掲載サイト】

https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo23_hh_000172.html

【お問合せ先】

国土交通省 政策統括官付

電話：03-5253-8794(内線 53-115)

E-mail: info@walkingspacedx.go.jp ※(at)を@に変えてお送りください



(クリックで PDF に移動)



■ 総合交通メールマガジンのご案内

▶ 総合交通メールマガジンとは

総合交通メールマガジンは、交通基盤整備や地域交通に関する最新の取り組みを幅広く紹介することを目的として発行しているメールマガジンです。主な対象者は、都道府県・市町村等の交通施策担当者ですが、どなたでもお申込みいただけます。

当メールマガジンで紹介する記事は、執筆者が任意の協力のもとで作成したものであり、成果を広く共有する観点から、二次的利用も可能な形式で掲載しております。

配信をご希望の方は、以下の事項を記載の上、5 ページの「お問合せ先」宛てにメールにてご連絡ください。

【配信申込】

以下の事項を記載の上、5 ページの「お問合せ先」宛てにメールにてご連絡ください。

(団体の場合) 所属、氏名、電話番号、メールアドレス

(個人の場合) 所属(職業)、氏名、電話番号、メールアドレス

【バックナンバー】

国土交通省ウェブサイトにて、過去に配信したメールマガジンもご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html



▶ 地域の取り組み・イベント案内 募集中！

当課では、**総合的な交通施策の取組**について情報提供頂ける自治体等を募集しています。**デジタル技術を活用した地域交通の維持・活性化に向けた取組**などを本メールマガジンで紹介し、ノウハウ等の共有を図りたいと考えております。自薦・他薦は問いませんので、5 ページの「お問合せ先」宛てにお気軽にお寄せ下さい。

また、**イベントや勉強会・講演会・セミナー**などにつきましても、当メールマガジンにてご案内させていただきます。主催者の方からでも、耳よりの情報でも構いません。5 ページの「お問合せ先」宛てに是非お寄せください。

▶ 総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

本メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえ、内容の充実を図りたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなどがございましたら、5 ページの「お問合せ先」宛てまでお気軽にご連絡ください。

▶ 配信先の変更について

メールマガジンの受付窓口が変更になった行政機関等の方につきましては、配信先のご変更をお願いいたします。5 ページの「お問合せ先」宛てにご連絡ください。なお、様々な部署で楽しんで頂けるよう努めて参りますので、配信継続も歓迎しております。

▶ 関連メールマガジンのご案内

国土交通省では、当メールマガジン以外にも、**公共交通政策全般**について、国民の皆様に関心を持って頂くためのメールマガジン「**公共交通メールマガジン**」を配信しています。ご興味のある方は、以下より詳細をご確認ください。

【公共交通メールマガジンに関する詳細】

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html



▶ 編集後記

夏休みシーズンも終わりましたが、皆さまいかがお過ごしでしたか？私は家族で夏休みに静岡県の大井川鐵道(トーマス号)に乗ってきました！とっても大盛況で、改めて乗り物は移動手段でありつつも、観光の目的にもなる、奥が深いものだなと感じました。次号もどうぞよろしくお願いいたします！

【本メールマガジンに関するお問合せ先（配信申込、配信先変更、ご意見・情報提供 等）】

国土交通省 総合政策局 総務課(総合交通体系) 担当:伊藤

TEL: 03-5253-8111 (内線 53-113)

E-mail: [hqt-soukou01\(at\)mlit.go.jp](mailto:hqt-soukou01@mlit.go.jp) ※(at)を@に変えてお送りください

総合交通体系ウェブサイト: <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/index.html>

